

めぐみイエス・キリスト教会

2019年4月28日(日) 第四主日礼拝
週報「通算第453号」



2019年標題聖句

第Ⅱ ペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまづくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年4月28日 第四主日礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時
司会・奏楽 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん
◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌108 「丘に立てる荒削りの」 p. 150

【交読文】 No.33 詩篇第104篇 p. 906

【賛美Ⅱ】 新聖歌235 「罪重荷を除くは」 p. 356

【使徒信条と主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.3 「復活の日の朝」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書20章24節～29節(新約p. 205)

【祈 禱】

【説 教】 《復活から一週間後に》 鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

◎本日の聖書箇所【ヨハネ20章24節～29節】(新約p.205上段)

20:24 十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたときに、彼らと一緒にいなかった。

20:25 それで、ほかの弟子たちが彼に「私たちは主を見た。」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません。」と言った。

20:26 八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らと一緒にいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って「平安があ

なたがたにあるように。」と言われた。

20:27 それからトマスに言われた。「あなたの指をここにつけて、私の手を見なさい。手を伸ばして、私のわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」

20:28 トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」

20:29 イエスは彼に言われた。「あなたは私を見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」

●ポイント1. 復活の日の夕方の出来事とは？

※ヨハネの福音書20章19節～22節「聖霊を受けなさい」(新約p.204)

20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方のことであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」

20:20 こう言ってイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ。

20:21 イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わしたように、私もあなたがたを遣わします。」

20:22 そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

●ポイント2. ルカの福音書における平行記事から

※ルカの福音書24章33節～49節「クレオパ夫妻の到着後」(新約p.155)

●ポイント3. 「一週間後」とは？

※マタイの福音書18章20節「主イエス様の約束と保証」 (新約p.33)

18:20「ふたりでも三人でも、私の名において集まる所には、私もその中にいるからです。」

※ヘブル人の手紙10章25節「集まることの意味と大切さ」(新約p.401)

10:25 ある人々のように、一緒に集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。

◎先週のメッセージの概要【十字架・埋葬そして復活】

《イースターです。主イエス様の復活です。主が栄光を受けられた記念すべき日であり、私たちクリスチャンが最も喜び踊る日です。しかし復活と言う栄光を受けられる為には、十字架の死と言う道を通らなければなりませんでした。

さて、イエス様は、弟子たちに三度にわたり受難予告をされました。特に三回目の受難予告では、始めて十字架刑について、明らかにされたのです。

『「人の子は、祭司長、律法学者たちに引き渡されるのです。彼らは人の子を死刑に定めます。そして、あざけり、むち打ち、十字架につけるため、異邦人に引き渡します。しかし、人の子は三日目によみがえります。」』と。

弟子たちには、このことが隠されていて、全く理解することは出来ませんでした。しかし、主は預言通り十字架にかかれ、そして死んでしまいます。

安息日が始まろうとしていました。アリマタヤのヨセフとニコデモは、イエス様の御体を十字架からはずし、洗い清め、香料と没薬を塗り、白い布で巻きました。この二人の議員は、すべての地位と栄誉を捨てて、自分たちの信仰をおおやけにしたのです。また神様はあえてこの二人を用いられたのです。

この時、使徒ヨハネとペテロ、主の母マリヤ、サロメ、スザンナ、他のマリヤとマグダラのマリヤは、主イエス様が埋葬される場面に居合わせました。

そしてゴルゴタの丘から、ほど近い園に造られていた新しい墓に、イエス様の御体が運ばれ、大きな丸い石の蓋が閉じられる所まで見守ったのです。

それは金曜日の午後三時から午後六時の間の出来事であって、大いなる安息日が始まる前の、わずか三時間と言う短い時間でなされたことでした。

埋葬には二つの目的がありました。それは弟子たちに、イエス様が本当に死なれたことを明確に示す為でした。そしてもう一つは、神様はあえて人を用いたいと願っておられると言うことです。つまり、ご自身を信じる者との共同作業によって、人を救いに導く方法を考え選ばれ、決定されたのです。神様は人を用いられるのです。私たちを。皆様をです。イエス様はよみがえられました。復活されました。そして死に勝利されました。私たちに永遠の命が与えられました。それを祝う日こそが、イースター(復活祭)なのです。ハレルヤ！》

◎お知らせ

※次回礼拝は5月5日(日)となります。また次回「聖書の学びと祈り会」は5月8日(水)午後6時15分からです。5月1日(水)は、連休の為お休みします。